

「サイエンスカフェ in 静岡」第 192 話（2026 年 3 月 26 日）

テーマ：「細胞を包む・隔てる膜の話」

講師：村上 博紀 先生

（静岡大学グローバル共創科学部 助教）

■ 参加人数 42 名

■ アンケート回答人数 34 名

■ ご職業

会社員：9	公務員：1	教員：2
自営業：1	主婦・主夫：4	
小学生：0	中学生：1	高校生・高専生：2
大学生・大学院生：0	その他：15	

■ 年齢

19 歳以下：2	20 歳代：0	30 歳代：1	40 歳代：2
50 歳代：6	60 歳代：12	70 歳以上：11	不明：

■ ご住所

葵区：9	駿河区：9	清水区：8	焼津市：5
藤枝市：1	島田市：0	富士市：0	浜松市：1
静岡県内その他：0	静岡県外：1		

■ この企画をどのようにお知りになりましたか。（複数回答有）

- ・継続参加による周知：24
- ・静大のサイエンスカフェホームページ：3
- ・サイエンスカフェのポスター（学校やバスで掲示されているもの）：5
- ・SNS を通じて（サイエンスカフェの Twitter を含む）：0
- ・職場などの情報回覧：0
- ・知人の紹介：2
- ・その他：0

■ 講演内容についてのご意見や感想・質問などをご自由にお書きください。

（ 10 歳代 ）

- 高校の生物の授業で学習したことを復習しながらお話を聞くことができてもおもしろかったです。特に高濃度相と低濃度相の2つの液相が分離する話がすごく興味深かったです。
- タイタンのアソトソームの話を聞いて、地球にあるタイプの膜とは違う構造でも膜ができて、生命が生まれる可能性があるというのがとても面白かったです。リン欠乏時に糖脂質に転換する仕組みも気になりました。

（ 30 歳代 ）

- 学生時代、生物の勉強をしていたので、懐かしくなりながら聞かせていただきました。無料でこのような話が聞けるなんて大変ありがたい機会でした。

（ 40 歳代 ）

- 葉緑体膜はリン脂質ではなく糖脂質であり、その合成酵素が外界の危機的環境時に膜の形質転換にも機能しているという点が面白かったです。動物も植物も生き残るためにうまくできていると感心しました。Type A と Type B の発現制御、貧しい土地でも育つ、品種改良とかにも応用できるのですか？思いつきでよくわかりませんが。

（ 50 歳代 ）

- なかなか難しい話でしたが、じっくり聞いていたらなんとなくですが、先生の言いたいことが分かったような気がしました。

（ 60 歳代 ）

- 理解できませんでしたが、このような研究分野があることを知れたのは興味深かったです。
- 生命を細胞のレベルで見ると、いろいろ作用が働いていることがわかりました。生命の神秘をのぞき見たようでした。
- わかりやすく説明いただきありがとうございました。
- 久々に参加しましたが、かなり高齢化していますね。
- 生命の起源、地球外生命体の構造等、SF の世界で聞いてきたことが科学で解明されてきているのがエキサイティング。葉緑体は50年前にはグラナラメラ、

ストロマラメラと暗記したけれど、今はそうしていないのだろうか。解決しましたが余計わからなくなりました。

- 植物が環境ストレスに抵抗して、足りないものを別のもので代替するのはおもしろいと思った。
- 本当に命の定義は難しいですね。
- 難しかったです。個々の話はわかるところもありましたが、

(70 歳代)

- 今日楽しみに参りました。知らなかったことを知ることは生涯の楽しみです。
- サイエンスカフェのチラシを市内図書館にも配布していただいて、より多くの市民が参加できるよう、市、各施設にも働き願えば幸いです。
- 生体膜脂質分子が植物の様々な環境変動に対応するための重要な役割を果たしていることを知り、この地球上の植物が生命を数十億年維持していることがわかりました。しかし、仕組みはとても高度なものであり、今後の研究で解明される日が来ることを信じています。
- 細胞に焦点をあてた研究内容の講話は大変興味深いものでした。
- 生体膜というあまり聞きなれない言葉でしたが、内容がかなりおもしろく勉強になりました。植物の環境への対処が興味深かったです。